



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



Vol. **10**

会長・幹事殿



能登 RYLA

Contents

- | | | | |
|----|--------------------------------------|----|--|
| 02 | ガバナーメッセージ | 12 | RYLA 能登研修に参加して |
| 04 | ロータリー財団奨学生四半期報告 | 13 | 第 2590 地区ローターアクトニュース |
| 06 | 第 2590 地区の更なる活性化を願って
…パストガバナーリレー⑨ | 14 | ロータリー財団・米山記念奨学会寄付者一覧
(2025年11月～2026年2月) |
| 07 | 地区活動報告 (2026年2月・3月) | 15 | 新会員の紹介／訃報 |
| 09 | 米山奨学期間を振り返って | 16 | 2026年2月会員数報告 (RC・RAC) |
| 10 | 能登から未来を学ぶ | | |

よいことの
ために
手を取りあおう

2025-26年度 R| 会長メッセージ



環境月間

国際ロータリー第 2590 地区ガバナー 大塚 正一

2月28日(土)、第55回ローターアクト年次大会が開催されました。大勢の方にご参加いただき誠にありがとうございました。

その年次大会の懇親会の最中に、米国がイランを爆撃したというニュースが流れました。以前は「世界の警察」と言われた米国の姿はもうありません。しばらくは世界が、経済が混乱するでしょう。街が、環境が破壊されていきます。

私たちは約束しています「過ちは繰り返させぬから」と。街や自然、環境を破壊する紛争や戦争が世界から無くなることを祈ります。

さて「環境」という言葉を聞くと、私自身は、今回の紛争の「環境破壊」や「戦争被害」のネガティブなイメージではなく、「自然保護」というポジティブなイメージが浮かびます。その中の一つに、会社の所在地(川崎市中原区)で毎年開催される「かわさき鈴虫祭り」という活動があります。私が所属する川崎北ロータリークラブの会員・故加藤吉二先生(歯科医師)が始められた奉仕活動です。40年以上の長きにわたり続けられています。鈴虫の鳴き声を聞くことで、優しい気持ちになって情緒豊かな子どもに育って欲しい、という思いから始められました。これは自然環境を守る活動にも繋がっていると思います。

ご存知の方も多いと思いますが、西洋人と日本人では虫の声の聞こえ方が違います。私たち日本人が「癒し」と感じる虫の声を、西洋人は「五月蠅い」雑音と感じます。日本人は、西洋人に比べて虫の声を聴き分ける能力に優れていると言われますが、実際には音を聴いている脳が異なります。虫の声を聴いたときの脳波の検査で、虫の声を聴く能が、日本人は左脳で、西洋人は右脳であることが分かっています(この違いは使用している言語が母音語であるか子音語であるかの違いによるのではないかと考えられています)。

学術的な問題はどうかあれ、虫の鳴き声を「美しい」と感じられる日本人は大変に幸せな民族です。暑い夏の最中の蝉の声にさえも、私たち日本人は「五月蠅い」というよりは、「暑い夏」という季節を感じることができます。虫の声に四季を感じることでできる日本という国は、日本人という民族は素敵ですね!

十数年前の、朝日新聞の天声人語に「日本は五季の国だ」ということが書いてありました。春夏秋冬だけでなく梅雨もあるということです。従来の日本の梅雨には、「朝露に濡れた紫陽花の香り」のイメージがありました。しかし、近年は梅雨時には集中豪雨が降り、各地に大きな被害をもたらし続け、そのような美しい梅雨のイメージがまったくありません。しとしと雨の降る梅雨はいったいどこに消えてしまったのでしょうか。

視覚で理解する山々や花々、風景の美しさ。聴覚で感じる潮騒のささやき、鳥のさえずり、虫の声の愛おしさ。嗅覚で感じる花の香り、潮の匂い。味覚で感じる四季折々の幸。体感で感じる自然の雄大さ、風や小川の水の

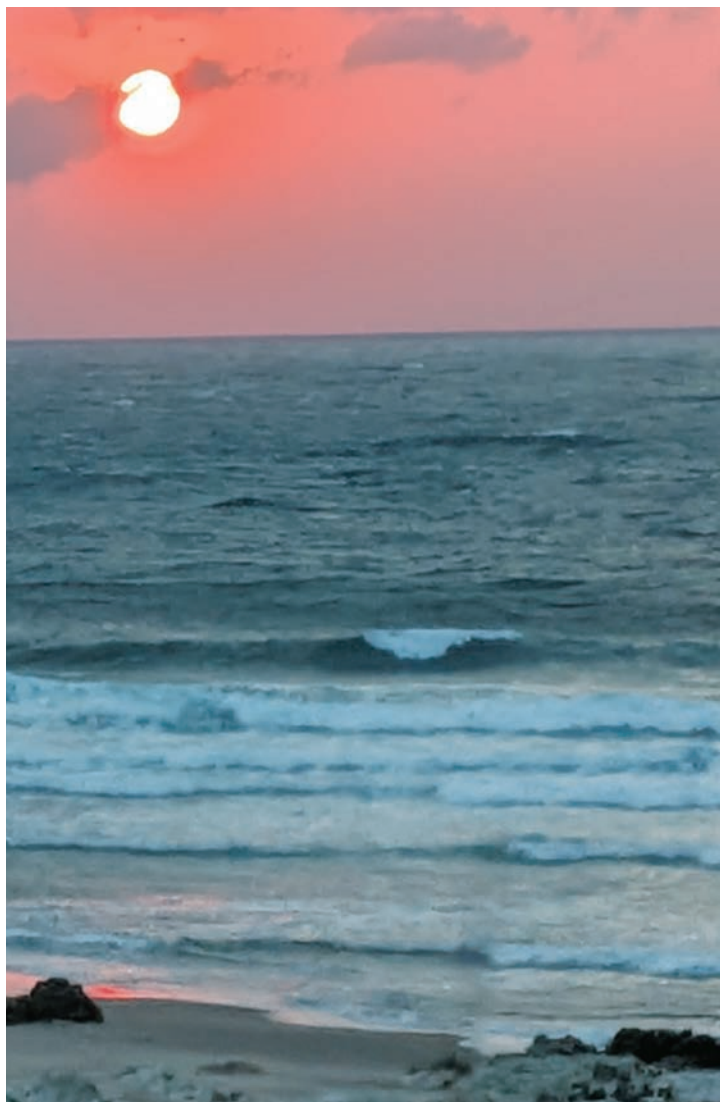
暖かさ、冷たさ。五感のすべてを使って自然を愛せる日本人、そして日本という国。そんな日本に生まれた幸せを感じ、虫や鳥、動物たちが暮らし、多くの草花が生息する自然と環境を守るために、自分にできることを、自分ができる範囲で行っていきましょう。その小さな行動が世界の自然と環境を守ることに繋がると信じて！

日本は、私たちが思っている以上に、緑豊かな国です。この豊かな自然と環境を守っていかなくてはなりません。それが次の世代、またその次の世代の人々のために果たさなくてはならない私たちの責務です。

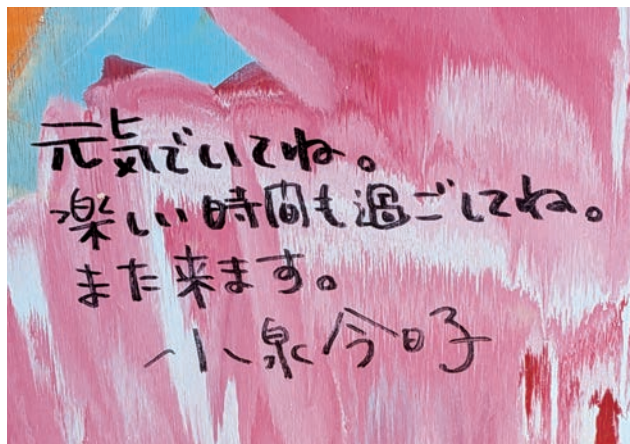
しかし、自然災害の脅威は毎年繰り返し世界各国を襲います。環境を守ろうとする私たちを嘲笑うかのように。今年度のRYLAは、「NOTO, Not Alone」を合言葉に3月20日（金）から22日（日）までの3連休を利用して、2年前の元日の被災地、輪島市周辺を訪問してきました。あまりにも復興が進んでいない現地の姿を目の当たりにして、「既に2年も経っているのに」と驚きが隠せませんでした。壊れたままの建物、崩れた灯籠、波打つ道路、崖崩れや河川の崩壊の跡、数えあげるときがありません。2年ではほとんど何も進まないことを知りました。特に能登の場合は、過疎化が進んでいる状態のところ、この大災害です。「能登の今は、日本の多くの街の30年後の姿です」という言葉が印象に残った今回のRYLAでした。

私たちが能登のためにできることがまだまだ沢山あります。日本の30年後の未来を考える上で、今回の能登RYLAは非常に有意義でした。

（『すゝ虫文集』（2012年）への投稿文を大幅修正・加筆）



能登沖の日本海の荒波の向こうに沈む太陽



2025-26 年度 第 2590 地区グローバル補助金奨学生 鈴木 聡美

(横浜瀬谷 RC / The Rotary Club of the Studios & Elstree and Borehamwood)

London School of Economics and Political Science MSc Gender, Policy and Inequalities



高層ビル スカイガーデン展望台より撮ったロンドンブリッジ

ご挨拶

皆様、こんにちは。現在英国 LSE にてジェンダーと政策について学んでおります、鈴木聡美です。留学を開始してから早3か月が経ち、先日無事に第1タームを終了いたしました。本ニュースレターでは留学先でのロータリアンの皆様との交流、および学校生活の様子をお伝えしたいと思います。

ロンドンという街

こちらに来る前はどんな街か想像がつかず非常に緊張していたのですが、ロンドンは東京に似た雰囲気のある街だと感じました。交通の便利さや道で人とぶつかってしまったとしても自然に Sorry と言い合うなど国民性も似ており、とても過ごしやすいです。また冬の寒さもあまり厳しくなく、11月からは街中がイルミネーションで彩られ、日照時間が短い中でも明るい気持ちで過ごせております。

学校前的大通り→
ロンドン名物赤いダブルデッカーバスで通学しています。



ホストロータリークラブとの交流

渡英後はありがたいことに頻繁にロータリアンの方々やロンドンで学ぶグローバル奨学生の皆さんと交流する機会をいただいております。まず、渡英してすぐにホストクラブである The Rotary Club of the Studios & Elstree and Borehamwood の例会にお呼びいただき、会長のジョージさんとバナー交換をいたしました。続いて複数のクラブが主催した障害を持った方々向けのゲーム大会のボランティアに参加いたしました。

10月末には第1130地区の地区大会に出席しました。ロータリアン、そして同じグローバル奨学生の方々には本当に温かく、留学当初ホームシックに見舞われた自身にとって本当に心のよりどころとなる存在で、ロータリーの奨学生に選出していただきよかったですと感じた出来事でした。



ボランティアとして参加した障害を持った方々向けのスポーツ大会の様子



開催地 Eastborne 海岸にて

学校での学び

今学期は3つの授業を取りました。どの授業もディスカッション中心で授業が進んでいくため、ついていくことに必死であつという間に学期が終わってしまった印象でした。しかしながら多様なバックグラウンドを持った同級生と、自分の国について話し合ったり意見交換をすることはかけがえのない時間となりました。特に印象に残った授業としては、ジェンダー学理論になります。授業を通じて、グローバルなジェンダー平等の概念は白人女性中心に形成されてきたもので、有色人種系女性（アフリカ・中東・南アジア系）が掲げるジェンダー平等とは異なるという主張を学びました。グローバル社会におけるジェンダー平等とは何かを考えさせられるとともに、日本社会におけるジェンダー平等とはどんなものなのかを考える貴重な機会となりました。

いつも授業を受けている学校校舎→
このときはクリスマス仕様です。



終わりに

ここまで大きな苦難なく、充実した留学生活を送らせていただいていることはひとえに皆様からのご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。本年度はロータリーとの関わりをより深めるとともに、学業においても精進してまいりますので、今後とも温かく見守っていただけますと幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

第2590地区パストガバナー 樋口 明 (神奈川)



① 私のロータリー・モメント

会員である銀行の支店長に誘われるまま、神奈川ロータリークラブに入会したのは34歳。サラリーマンから家業を継いで間もない頃で、ロータリーに関する知識は皆無でした。いざ入会してみると、名前を覚えてもらえないのは当たり前で、当然歓迎会も無し。この程度のことはたいして気にはなりませんでしたが、面と向かって元気よく挨拶しても無視され、私が人前で話している時に「あれは誰だ?」とおちゃらけて、周りの人が受けている光景を目の当たりにしたときは、正直悔しかったですね。辞めようとは思いませんでしたが、入会して数ヶ月は卑屈になっていました。そんな時に、クラブの重鎮であり横浜を代表する企業の社長(当時)である鈴木邦之会員(2025年3月逝去)が「ロータリアンは、社会的地位や会社の大小なんて関係ないんだよ。みんな公平なんだから、僕のこと鈴木さんではなく、邦之さんと呼んでくれればいいんだよ。週一回のこの1時間は仲間に来て話をし、心からリラックスできるひとときなんだ。」と声をかけてくださったのです。もしかしたら、私の様子を見て気にかけてくださっていたのかもしれませんが。まさに、絶妙のタイミングで声をかけてくださいました。その一言で、視界がパッと開けたような気がしました。相変わらず挨拶をしてくれない人はいましたが気にならなくなり、どんどん先輩方の胸に飛び込んでいくことができました。GSE(以前行われていたロータリー財団のプログラム)のホストファミリーを受けたり、インターアクトクラブ設立に向けて我武者羅になったり、わからないことは先輩に聞き、自分でも調べて、頑張れば頑張るほど、人が集まってきて、頼られると嬉しくなって、どんどんロータリーが、ロータリーの仲間が好きになっていきました。

邦之さんの一言と眼鏡の奥の優しい眼差しは、今でも脳裏に焼き付いています。

※以前、ロータリーの友「ロータリー・モメント」に寄稿したものを若干修正いたしました。

② クラブ会長の皆様へ

ここからは地区行動計画推進リーダーとして、クラブ会長の皆様にお願ひでございます。

この20年間喫緊の課題と言われ続けてきた会員減少を、今年度の大塚ガバナー年度で何としてもストップさせ、次年度以降は上昇カーブを軌道に乗せなければなりません。クラブ会長の皆様には、ご負担になっていることを申し訳なく思いながらも、情報の共有化を図り、クラブの悩みを解消し、活性化につなげていただくために2ヶ月毎に「クラブサポートミーティング」を開催しております。4月5日の同ミーティングでは、「退会防止(会員維持)」について心を一つにしたいと思っております。

【目配り・気配り・コミュニケーション】

退会届が出てしまっちは、翻意させるのは至難の業です。

- 例会に来なくなった。
- メールの返事がない。
- 話しかけてもよそよそしい。

必ず兆候はあります。それを見逃さないこと。

一人の退会者も出さないとの気概を持って、ラストスパートをかけていただきたいと思います。

地区活動報告（2026年2月・3月）

● 次年度地区チームラーニングセミナー報告

次年度地区幹事 青木 理（横浜南）

2月20日、ソシア21にて次年度地区チームラーニングセミナーが開催されました。

宮田ガバナーエレクト年度に向けての初の地区行事という事で、関係者各位緊張と不安を感じながらの初陣となりました。

受付や地区役員の席次決めなど、運営側の立場になり初めて、歴代の地区運営をされてきた方々のご苦勞、ご尽力を思い、改めて感謝の気持ちが芽生えました。

出席者のご紹介を終え（まだまだ修行が必要レベルで反省）、私にとっては父親か兄のように頼れる存在の大塚ガバナーのご挨拶が始まると、少しずつ緊張が解れました。

セミナーの中で危機管理についてのお話を伺い、地区運営に際しては特に重要ではないかと思いました。青少年や米山奨学生など外部の方々と接する機会が多い活動は、特に注意を払って活動して行きたいと思います。

2026-27年度RI会長メッセージ並びに宮田ガバナーエレクトの地区方針「ロータリーを楽しもう！」のもと、次年度地区内すべてのロータリーファミリーが楽しい年度を過ごして頂けるよう宮田ガバナーエレクトを手伝い、微力ではありますが努力してまいります。

パストガバナー、次年度ガバナー補佐、地区副幹事、各委員会の皆さまには大変お世話になります。何卒宜しくお願い申し上げます。



● ローターアクト地区年次大会に参加して

地区ローターアクト委員長 依田 紀久子（横浜瀬谷）

第55回地区ローターアクト年次大会が、2月28日にローズホテルにて開催されました。地区内はもちろん、地区外21地区からもロータリアン・ローターアクトあわせて268名が出席され、盛大な大会となりました。皆様ご出席ありがとうございました。

岡本真理子ローターアクト地区代表を中心に、ローターアクトの皆さんが一丸となって創り上げた素晴らしい大会でした。ローターアクトの活動報告もディスカッション形式で行われ、内容がコンパクトにまとめられており、大変分かりやすい発表でした。一つ一つの活動を丁寧に実施し、振り返りを行いながら次の活動へとつなげていく姿勢が印象的でした。

ロータリーの活動は「奉仕」と「親睦」です。

地区内外のアクターとの交流を生かし、活動の輪をさらに広げていただきたいと思います。また、ローターアクトならではの視点から主体性を持ち、斬新でインパクトのある奉仕活動が展開されることを期待しております。

今年度推進している能登復興支援のように、クラブ単位では難しい地区全体での奉仕活動も、今後継続して取り組んでいただきたいと思います。そして、皆さんが日本の未来をつくる素晴らしいリーダーへと成長されることを期待しています。

● フレッシュ交流会を終えて

地区会員交流委員長 谷川 公一（横浜西）

3月6日、新横浜グレイスホテルにおいて、地区会員交流委員会主催による「フレッシュ交流会」を開催いたしました。本交流会は、入会5年未満の新会員を対象に、クラブの枠を越えた交流を通じて各クラブの奉仕活動への理解を深めることを目的として企画されたものです。当日は地区内各クラブより約120名もの会員の皆さまにご参加いただき、会場は大変活気に満ちた雰囲気となりました。参加者はテーブルごとに自己紹介を行うとともに、それぞれのクラブで取り組まれている奉仕活動について紹介し合い、地域に根ざした多様な活動事例が共有されました。各クラブの特色ある活動が紹介される中で参加者同士の関心も高まり、自然と交流の輪が広がっていきました。また、各クラブの会長や幹事をはじめとする先輩会員の皆さまにもご参加いただき、新会員を温かく見守りながら交流を支援してくださいました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。その後の懇親会では、参加者同士がさらに打ち解け、クラブの垣根を越えた交流が一層深まりました。江戸の大道芸が披露され、演者の見事な技に会場は大いに盛り上がりました。さらに、ガバナー、ガバナーエレクト、ガバナーノミニ、ガバナーノミニ・デジグネイトが実際に傘回しに挑戦する場面もあり、会場は笑顔と拍手に包まれ、和やかな雰囲気の中で親睦を深めるひとときとなりました。他クラブの取り組みに触れることで新たな気づきや学びを得る機会となり、「自クラブの活動を見直すきっかけになった」「同世代のロータリアンとのつながりができた」といった声も聞かれました。本年度のRIテーマ「Unite for Good（よいことのために手を取りあおう）」のもと、志を同じくする仲間が出会い、学び合い、交流を深める大変意義深い機会となりました。

本交流会が、新会員の皆さまにとってロータリー活動の魅力をあらためて実感する契機となり、今後のクラブ活動や地区活動への積極的な参加につながることを期待しております。



● 第4回次年度ガバナー補佐研修会報告

地区ラーニング委員長 露木 雄二（横浜瀬谷）

3月9日に最終回となる第4回目のガバナー補佐研修会を実施致しました。「クラブ活性化」についてクラブ管理運営委員会、会員増強委員会、ロータリー財団委員会の各委員長より報告及び研修が行われました。クラブ管理運営委員長からは、My Rotaryの登録率の強化、ロータリアンマップの活用、地区同好会の推進について方針が示されました。会員増強については「会員増強の伝え方、“言葉”の準備のお願い」とのタイトルで研修が行われ、仲間が増えるからこそできることがあることを常に意識し行動する必要性が示されました。ロータリー財団委員長からは、国際ロータリーは奉仕の理念、人格の推進、育成の場であること、財団はその実践の場を構築していることが示され、ロータリー財団の願いは一つ 世界平和 ということで締めくくられました。「ガバナー補佐の役割と工夫」についての研修は「会長・幹事会を成功させるために」と題し、行いました。

総評では、ガバナーエレクトより「4回の研修が終わりましたがこれからも学びの場が進んでいます。PELSにおいても、各ガバナー補佐がファシリテーターとなることになっているのでしっかり準備し、会長・幹事会についてもクラブと日程を合わせて実施するよう」指示がありました。全4回の研修への参加の謝辞とともにガバナーの方針に基づき良い活動を築き上げることを祈念し、結びとなりました。



米山奨学期間を振り返って ～2025年度米山奨学生より

当地区にてお世話し、2026年3月末で米山奨学期間を終了した奨学生より、感想文が届きましたのでご覧ください。

喬帕 旭日根 (チョパ ショルゴン) (世話クラブ：横浜南 RC)

ロータリー米山奨学生を終えて、一番感じているのは感謝の気持ちです。ロータリーでのカウンセラーや世話クラブの方々、大学の先生方、そしてすべての皆さんに心から感謝しています。学業面だけでなく、生活面でも本当にたくさんサポートしていただきました。この2年間、いろんな活動に参加させていただいたり、日本の美しい景色をたくさん見に行ったり、面白い日本文化や美味しい日本料理にもたくさん触れられました。そのおかげで、自分も大きく成長できたし、日本の文化やマナーについてももっと深く理解できるようになりました。母国に帰りますが、これで終わりだとは思っていません。むしろここからがスタートです。日本で学んだこと、そしてロータリーの皆さんから教わった「奉仕の精神」を胸に、母国と日本の架け橋になれるよう頑張っていきたいと思います。



お世話いただいた横浜南ロータリークラブの皆さんと

程 亜 (世話クラブ：横浜瀬谷 RC)

ロータリー米山奨学生の一年間では、米山梅吉記念館の訪問や着物体験など、さまざまな貴重な経験をさせていただいたことに心から感謝しています。その中でも、最も印象に残っているのは夏季バス旅行です。今年は静岡県を訪れ、お茶摘みを体験しました。実は、私の母国の故郷でも家の裏山に茶畑があり、小さい頃からお茶にはとても馴染みがあります。日本と母国にはお茶の文化という共通点があり、今回の体験を通して、そのつながりを改めて身近に感じることができました。実際に摘み始めると、とても夢中になり、周りの方から「プロみたい」「地元の人が混ざっているみたい」と冗談を言われるほどでした。自分でも思わず笑ってしまい、とても楽しい時間になりました。一方で、山の中での体験だったため蚊が多く、腕などをたくさん刺されてしまい、強い痒みに悩まされました。それでも自然の中で体を動かしながら活動する経験はとても新鮮で、普段の生活ではなかなか味わえない貴重な体験だったと思います。これから参加する方には、夏の旅行でも長袖を着ていくことをおすすめしたいと思いました。また、摘んだばかりの茶葉を卵と一緒に炒めて食べたことも印象的でした。自分たちが摘んだ茶葉をその場で料理し味わうことで、自然の恵みをより身近に感じることができました。さらに、この旅行を通して多くの奨学生やロータリアンの方々と交流することができ、新しい友達もたくさんできました。同じ体験を共有することで自然と会話も弾み、国や文化を越えたつながりを感じることができました。バス旅行は私にとって忘れられない大切な思い出の一つとなりました。



地区 RYLA 委員長 加瀬 健史 (川崎北)

今回の RYLA は従来の講義中心型ではなく、現地に赴き、地域の方々と対話しながら学ぶ「体験型・対話型」のプログラムとして企画いたしました。舞台として選んだ能登には、事前に二度の視察に訪れました。一度目の視察は、震災と豪雨を経験した地域の現状を理解することが目的でした。現地の状況を自分の目で確認し、復興に取り組む方々の声を直接聞くことで、能登が抱える課題と可能性を肌で感じることができました。「30年後の日本を見たいのなら、能登に行けば見られる。」その言葉が強く印象に残っています。

二度目の視察は、人間関係の構築を目的として訪れました。川崎北ロータリークラブの仲間たちの協力により支援物資が集まり、松波会員よりブランケット 64 枚、ミラクルモッキー 150 セット、マスク 2,000 枚をご提供いただき、事前に現地へ送付することができました。この支援をきっかけとして現地の方々との信頼関係が生まれ、RYLA の受け入れにもつながりました。ロータリーのネットワークの力を実感した瞬間でもありました。

今回の RYLA には、18 歳から 30 歳までの若者 19 名が参加しました。加えてロータリアン 15 名が参加し、RYLA 委員会のみならず、奉仕プロジェクト委員会、青少年奉仕委員会、クラブ会長、クラブ青少年奉仕委員長など、多様な立場の方々にご参加いただきました。さらに大塚ガバナーに加え、エレクト、ノミニー、ノミニー・デジグネートが一堂に会して参加する RYLA は史上初ではないかという声もあり、地区としての RYLA への期待と重要性が示された象徴的な出来事でした。

今回、新たな試みとして「アシスタント枠」を設けました。過去の RYLA 参加者であるライラリアンに加え、当地区ローターアクト、さらに開催地である第 2610 地区（石川・富山）のローターアクトメンバーにも参加いただきました。10 代から 60 代が 1 台のバスに乗り、寝食を共にし、世代を超え、地区を超えた交流が生まれ、継続的なリーダー育成の仕組みとしても意義ある取り組みとなりました。プログラム設計にあたっては、心理的安全性にも十分配慮しました。若者が安心して発言できる環境づくりを重視し、ロータリアンは指導者ではなく伴走者として関わることを基本としました。また、チームワークや対話の時間を多く設け、意見の違いを尊重しながら主体的に考える構成としました。

三日間のプログラムでは、能登の現状と未来について、総勢 7 名の地域の方々から直接お話を伺いました。行政、事業者、地域活動家など、多様な立場からのリアルな声に触れることで、参加者は多角的に課題を捉えることができました。単なる視察ではなく、対話を中心とした学びが深い気づきにつながったと感じています。初日は輪島市役所職員によるレクチャーから始まり、バスには能登官民連携復興センターのスタッフにガイドとして乗り込んで頂き、輪島朝市の見学、總持寺祖院の訪問、黒島地区でのゲストハウス経営者の講義などを通じて、能登の歴史と現状を学びました。二日目は、もとやスーパーでの交流やサーモスボトル 48 本の贈呈、白米千枚田の見学、炊き出しで 1 日 2,000 食を提供した飲食店オーナーによる講義、避難所の視察、輪島塗販売など、復興の現場を体感しました。なお、サーモスボトルは川崎北 RC 谷口会長よりご提供いただきました。その後、チームごとに課題マッピングやポスター制作を行い、若者たち自身が課題を整理し、解決策を考えるワークを実施しました。最終日は、新横浜 RC 岩会員のご子息であるサンテック株式会社岩武志社長による、能登の現実に深く切り込む講義をいただき、三日間の学びをもとにピッチコンテストを開催しました。



初日は緊張していた若者たちも、地域の方々やチーム間、そして我々との対話を通じて徐々に主体性を発揮し、最終日の発表では自信に満ちた表情で未来を語っていました。

ピッチコンテストの優勝は、隆起によってできたビーチを活用した映画祭とキャンプ場の提案でした。美しい能登の里山里海を舞台に芸術的な取り組みを行うというもので、審査員としてお越しいただいたゲストハウスオーナーが資料を写真に収めていたことが印象的でした。次点はキャンピングカーのレンタル事業でした。宿泊インフラがまだ整っていない現状を逆手に取った、実現性の高い素晴らしいアイデアでした。

私自身、ロータリー歴はまだ4年目です。初年度にRYLA 委員、翌々年副委員長、そして今回委員長を拝命しました。今回で第41回目となり、諸先輩方が築かれた歴史の重みを感じると同時に、自分に務まるのかという不安もありました。しかしロータリーは、経験年数に関わらず挑戦の機会を与えてくれる組織です。その期待に応えたいという思いで、委員の皆さまと共に準備を進めてまいりました。今回のRYLAを通じて改めて感じたのは、ロータリーのつながりの力です。地区を超え、世代を超え、志を同じくする仲間が集まることで、新しい価値を生み出すことができました。また、若者の柔軟な発想や前向きな姿勢は、私たちロータリアンにとっても大きな刺激となりました。RYLA は若者が学ぶ場であると同時に、ロータリアン自身が学び直す機会でもあると感じています。そして、一番成長させてもらったのは、私自身かもしれません。

最後になりますが、本プログラムに関わっていただいたすべての皆さまに心より感謝申し上げます。今回のRYLA を通じて強く感じたのは、若者の可能性の大きさです。最初は遠慮がちだった参加者が、対話を重ねるごとに自分の言葉で語り始め、仲間の意見に耳を傾け、未来への提案を形にしていく姿は、まさにリーダーシップの芽吹きでした。そして、その成長を支えたのは、地域の方々の真摯な言葉と、ロータリアンの温かい伴走でした。世代や立場を超えて共に過ごした三日間は、参加者だけでなく、私たちにとってもかけがえのない時間となりました。この能登で生まれたつながりと学びが、それぞれの地域に持ち帰られ、新たな行動へとつながっていくことを心から期待しています。

NOTO, Not Alone



RYLA 能登研修に参加して

地区ローターアクト幹事 市川 亜結 (横浜南 RAC)

RYLA 能登研修に参加し、被災地を「知っているつもり」であった自分の浅はかさを痛感いたしました。報道やスマートフォン越しでは状況の一部しか理解できず、現地で直接お話を伺うことで、初めてその時々的心情や、その後の変化に触れることができました。こうした経験を通じて、「自分ごととして考えること」「決して忘れないこと」の重要性を強く感じると同時に、すぐにできる行動すら起こせていなかった自分に対し、情けなさや悔しさを覚えました。また、能登では、本来 30 年かけて進むはずの少子高齢化・過疎化が、わずか数年で進行している現実があります。役割やつながりを失うことが地域の衰退に直結することも実感いたしました。さらに、同世代の女性と出会えなかったことも、地域の現状を象徴していると感じております。帰りの機内から眼下に広がる東京の煌びやかな街並みを眺めながら、能登での光景を思い返したとき、能登の未来のために真剣に語りかけてくださった皆様のまなざし、黒島の高台から見た夕日、そして能登空港で職員の方が全身で旗を振って見送ってくださった姿が、次々とよみがえりました。見た目の華やかさでは東京の方が勝るはずですが、人の想いが込められた能登での光景の方が、より心に残る美しさを感じました。能登の復興は日本の未来そのものであり、能登が立ち直ることは日本全体の再生につながると感じております。ローターアクトとしては、第 2610 地区との連携をはじめ、全国に広がるネットワークを活かし、現地のニーズに即した支援を迅速に行うとともに、継続的に関わり続けることが重要であると考えております。そのためにも、本研修で得た学びを今後の行動に移してまいります。最後になりますが、本研修を企画・運営して下さった加瀬委員長をはじめとする RYLA 委員会の皆様、そして引率して下さったロータークラブの皆様に、心より感謝申し上げます。今回、一般参加枠として年下の従姉妹にも声をかけ、神奈川ロータークラブのご推薦により参加させていただきました。恐縮ではございますが、下記感想文もぜひご覧いただけますと幸いです。

能登を巡って初めての第一印象は、先の大地震や豪雨の被災地であるという印象を忘れてしまうほど魅力的な地域だということでした。自然が豊かで誇れる伝統文化があり、それを大切にしている地元の人々がいることを実際に感じる事ができ、とても楽しく過ごすことができました。特に食事は印象的で、昼食でいただいたふぐの天ぷらは本当に美味しく、強く心に残っています。また、お土産店を見て回ったり地元の方と話す中で、能登が天然の真ふぐの漁獲量日本一であることや、ブルーベリーが名産であることなど、これまで知らなかった魅力が多くあると知りました。一方で、こうした魅力が全国的には十分に知られていない現状をもったいないと感じました。復興のためにも、これからは特に SNS などを活用した情報発信が重要になるのではないかと考えるようになりました。さらに、現地の方や同じグループの能登出身の参加者の話を通して、地域コミュニティの結びつきの強さや難しさについても知ることができました。実際にお土産店の方と雑談する中でもその雰囲気を感じる場面があり、能登の良さだけでなく現実的な課題についても理解した上で地域を盛り上げる施策を考える必要があると実感しました。そのような背景を踏まえて企画を考えることは簡単ではありませんでしたが、だからこそ現実味のある実行性の高い案をチームで練り上げることができたと思います。コンテストの結果は 2 位と悔しさも残りましたが、この短い三日間で密度の濃い活動ができたこと、そしてチームメンバーと深く関わることができたことをとても嬉しく感じています。参加前は知り合いがほとんどおらず、どのような人と出会い、どのように活動するのか分からないことに不安を感じていました。しかし、実際には皆がとても温かく、互いに率直に意見を言い合える雰囲気の中で活動することができました。自然体でいながら前向きに取り組むことができた三日間は、自分にとって大きな学びと自信につながる貴重な経験になりました。

古谷 藤子



どんなときも
～あなたの未来に FROM THE ROTARACT～

第55回地区年次大会



本大会の開催にあたり
ご尽力いただいた
全ての皆様に改めて深く
感謝申し上げます。
全国各地から、世代や地域
を越えて、お集まりいただ
いたこと、心より嬉しく、
深く御礼申し上げます。

地区代表としての日々と向き合う中で、いつの間
か、地区全体への愛着が、以前よりもずっと深ま
っていました。会員一人ひとりの挑戦が、確実に
クラブを、そして地区を、前へと進めている。
行事の成功も、継続した奉仕も、クラブの成長も、
その、全ての原動力は
「人」であると実感しています。
誰かの一步が、誰かの背中を押し、その積み重ねが
未来を創る。この半年間、私はその姿を何度も目
にしてきました。



028



当日は21地区の友好地区の皆さまを含め、延べ268名もの
ご登録を賜りました。私を知るこの10年の中で過去最多の
参加者数を記録する、極めて盛大な年次大会となりました。

今年度は横浜市立大学RACが仲間に加わり、各クラブでも
少しずつメンバーが増え、ようやく波に乗り始めたと感じてい
ます。今回の大会を通じ「いいチームだな」と改めて実感す
るとともに、これほど多くの方に応援されているのだと、
胸が熱くなる一日でした。

皆様から頂いた温かい応援を、今後の活動の原動力に
変えていきます。



ロータリー財団・米山記念奨学会寄付者一覧(2025年11月～2026年2月)

ロータリー財団

●メジャードナー(4名)

川崎マリーン	轟 淳次/轟 美恵子
横浜南	宮田 彰久
横浜緑	加藤 喜夫
横浜泉	川口 健治

●ベネファクター(5名)

川崎幸	田村 哲郎
横浜港北	大塚 順
横浜鶴見北	祝 康一
横浜	左右田 憲一
横浜中	中島 朋子

●マルチプル・ポール・ハリス・フェロー(69名)

川崎南	山内 耕三
川崎幸	田村 哲郎 大澤 義和 高橋 久之
川崎大師	猪狩 佳亮 坂東 保則 横山 俊夫
川崎マリーン	中條 藝立 三野 公一 望月 幹仁
	松中 秀司 小山 宏明
川崎北	松山 直樹 米山 元章 石坂 想
川崎鷺沼	高橋 悟 宮台 泰洋
川崎西	板橋 忠彦 渡部 清一
川崎百合丘	安藤 美恵子 福家 辰夫 嶋 元
川崎麻生	宇津木 茂夫
横浜鶴見北	簡 伸治 田邊 勝久 生方 常明
	加藤 進 上原 良廣
横浜北	岡本 光央 和田 久寿
横浜都筑	岸野 敏勝 大久保 之典 相沢 一夫
	鬼嶋 雄三
横浜南	宮田 彰久 角井 幸一
横浜旭	安藤 公一
横浜緑	平田 恵介 加藤 喜夫
横浜田園	細谷 章 小嶋 優 高橋 忠夫
新横浜	山田 正人 三田 吉人 新倉 俊治
	柳川 弘文
横浜	原 信造 井上 誠一
横浜磯子	浜田 登志男
横浜金沢八景	上田 廣一 松村 正鴻
横浜ベイ	池田 京子 石王 美恵子 杉本 勝弘
横浜西	長谷川 章範 丸山 絹代 本多 初穂
	小川名 剛彦 島崎 尚己 高橋 一雄
	河合 昭彦 谷川 公一 浜口 伸一
横浜保土ヶ谷	内田 邦彦
横浜戸塚西	渋谷 千恵磨
横浜泉	林 弦矢 川口 健治 志村 昌
横浜MM21	山田 晃久

●ポール・ハリス・フェロー(14名)

川崎大師	宮崎 真一 笹沼 裕丈
川崎マリーン	石田 生
川崎鷺沼	渡邊 寛美
川崎西	小西 宏行 松田 孝子
川崎高津	小川 和夫
横浜鶴見北	小笠原 憲介
横浜北	富川 美恵子
横浜瀬谷	宇野 穰
横浜南央	駒井 真里
横浜金沢八景	青柳 圭子 富田 ひとみ
横浜西	若菜 昌昭

ロータリー米山記念奨学会

●米山特別功労法人(1社)

横浜鶴見北	妙高企業株式会社
-------	----------

●米山功労法人(1社)

横浜	三井不動産株式会社
----	-----------

●米山功労者メジャードナー(16名)

川崎麻生	鈴木 昭弘 梅澤 馨 鈴木 憲治
横浜東	高橋 延幸 佐藤 嘉記 谷貝 秀和
	明石 敏男 小原 孝之 大野 清一
横浜南	川崎 智晴 水谷 透
横浜南陵	小俣 務 岡本 恭幸
新横浜	三田 吉人
横浜南央	平岩 敬一
横浜金沢東	遠藤 尚男

●米山功労者マルチプル(109名)

川崎南	船越 耕一 村田 真一 山田 紘充
	鈴木 雄三
川崎幸	中川 潔 加藤 豊
川崎中央	柳町 大介 伊藤 弘志 坂本 将平
	佐野 嘉男 増山 雅久
川崎北	野口 隆一 帯谷 昌充 柳澤 信夫
川崎鷺沼	香田 大志郎 木原 壽美子 宮台 泰洋
川崎西	石本 英之 山寺 雄太 原 保男
	稲毛 俊英 田中 伸一 木所 章
	郷司 精二 筒井 進
川崎百合丘	井上 久
川崎高津	船田 勝利
川崎麻生	志村 幸男 大野 勉 宇津木 茂夫
	木村 良三
横浜東	前田 信哉 池田 俊一 藤岡 憲治
	藤本 三代治 大内 政彦 荒木 康之
	遠藤 一郎 橋本 陽子 齋藤 実
	立川 道彦 田口 泰朗 小堀 和男
	矢野 敬児 坂本 昌己 出村 忠廣
	田中 淳一 巻田 佳樹 森 高繁
	柘崎 一之 和田 晃 筒見 克彦
横浜北	寺田 裕子 漆原 明 岡本 充央
	石川 國樹 横溝 雄次 尾島 光夫
横浜都筑	織茂 太臣
横浜日吉	永田 邦春 木村 長俊 川野 由香里
	渡邊 貴久子 佐々木 広美 平 雅吉
横浜南	宮田 彰久
横浜緑	浅井 優子 加藤 喜夫 森 一誠
横浜南陵	古林 能敬 安達 信 佐藤 年男
	細谷 裕一 下山 清隆
新横浜	佐藤 佳一 佐氏 又英
横浜あざみ	石川 俊
横浜南央	星川 暁代 持田 誠吾 朝倉 昌人
横浜磯子	峯岸 博之
横浜金沢八景	加治 大
横浜ベイ	前田 平俊
横浜西	河合 昭彦 金杉 誠
横浜戸塚	加藤 博明 中村 裕一 本多 誠
	金子 禎 福村 裕子 高橋 ソノ
	石井 政明 平山 正義 吉原 守
	山口 純一 吉原 寛 山口 秀利

横浜戸塚	小泉 和雄 伊東 亨	齊藤 芳彦	三浦 宏一
横浜戸塚西	小泉 啓次朗	竹中 一真	田林 真由
横浜泉	林 弦矢	奥津 幹雄	
横浜MM 21	寺師 三千彦		
横浜戸塚中央	吉原 憲孝		

横浜東	井上 康久
横浜鶴見北	蜂須賀 達寿
横浜北	富川 美恵子 漆原 伸亮
横浜都筑	油田 忠幸
横浜日吉	横川 和幸
新横浜	上村 努
横浜南央	山本 諭
横浜中	類家 立志 高橋 芳明
横浜金沢東	眞榮城 エリサ
横浜ベイ	浦野 哲也
横浜西	至田 勝紀
横浜泉	柳川 優平
横浜MM 21	平林 虎一郎

●米山功労者 (22名)

川崎大師	大谷 茂
川崎中央	瀧上 亜里佐
川崎鷺沼	坂野 正典
川崎西	木村 俊之
川崎高津	喜多川 亮平 古野 孝憲 谷野 功明

新会員のご紹介



田川 隼

(川崎)

旅行斡旋業

2026年3月5日入会



長内 伸也

(川崎南)

港湾運送関連事業

2026年3月3日入会



齋藤 勇喜

(川崎マリン)

古美術骨董・古物商

2026年3月5日入会



三木 守

(川崎北)

駐車場経営

2026年1月7日入会



巖 駿

(川崎北)

港湾建築設計

2026年3月4日入会



中島 秀和

(川崎中)

不動産業

2026年3月10日入会



中西 研太

(川崎高津南)

リサイクル業

2025年12月1日入会



須田 則子

(川崎高津南)

保険業

2026年3月2日入会



飯田 昭良

(横浜山手)

不動産業

2026年3月4日入会



神田 大輔

(横浜ベイ)

広告代理店

2026年1月5日入会

訃報

～謹んでご冥福をお祈り致します～



鈴木 克明 (川崎西)

令和8年3月10日 逝去

81才

1986年6月20日 入会

2008-2009年度 クラブ会長

2015-2016年度 第3グループガバナー補佐

ベネファクター、PHS、

米山功労者マルチプル



国際ロータリー第2590地区 2026年2月会員数報告 (RC・RAC)

グループ	クラブ名	例会数	会員数()内女性				
			2月末日	年初7/1	本年度入会者	本年度退会者	本年度増減
1	川崎	3	59(4)	58(4)	3(0)	2(0)	1(0)
	川崎南	2	32(6)	29(4)	4(2)	1(0)	3(2)
	川崎幸	3	41(8)	40(8)	1(0)	0(0)	1(0)
	川崎大師	3	40(4)	42(4)	1(0)	3(0)	-2(0)
	川崎中央	3	43(12)	45(12)	0(0)	2(0)	-2(0)
	川崎マリーン	3	34(4)	33(4)	3(0)	2(0)	1(0)
	新川崎	3	16(2)	14(3)	4(0)	2(1)	2(-1)
	小計		265(40)	261(39)	16(2)	12(1)	4(1)
2	川崎北	3	50(11)	36(4)	15(7)	1(0)	14(7)
	川崎中	2	40(4)	39(4)	1(0)	0(0)	1(0)
	川崎鷺沼	2	27(2)	25(2)	2(0)	0(0)	2(0)
	川崎中原	2	22(3)	21(3)	1(0)	0(0)	1(0)
	川崎とどろき	2	14(3)	12(3)	2(0)	0(0)	2(0)
	小計		153(23)	133(16)	21(7)	1(0)	20(7)
3	川崎西	4	64(3)	62(3)	2(0)	0(0)	2(0)
	川崎西北	4	23(2)	23(2)	0(0)	0(0)	0(0)
	川崎百合丘	4	49(7)	49(7)	2(1)	2(1)	0(0)
	川崎高津	4	37(1)	34(0)	3(1)	0(0)	3(1)
	川崎麻生	4	25(1)	25(1)	0(0)	0(0)	0(0)
	川崎高津南	2	19(1)	17(1)	2(0)	0(0)	2(0)
	小計		217(15)	210(14)	9(2)	2(1)	7(1)
4	横浜東	4	50(4)	51(4)	0(0)	1(0)	-1(0)
	神奈川	3	34(4)	32(3)	3(1)	1(0)	2(1)
	横浜港北	4	38(7)	38(7)	1(0)	1(0)	0(0)
	横浜鶴見北	3	32(3)	32(2)	1(1)	1(0)	0(1)
	神奈川東	2	44(3)	46(3)	0(0)	2(0)	-2(0)
	横浜北	2	21(3)	19(2)	2(1)	0(0)	2(1)
	横浜都筑	2	32(2)	30(0)	2(2)	0(0)	2(2)
	横浜日吉	3	41(8)	38(7)	3(1)	0(0)	3(1)
	小計		292(34)	286(28)	12(6)	6(0)	6(6)

* 川崎北RC会員数の内訳

川崎北	3	38(4)	36(4)	3(0)	1(0)	2(0)
川崎北YOKOHAMAロータリー衛星クラブ	2	12(7)	0(0)	12(7)	0(0)	12(7)

グループ	クラブ名	例会数	会員数()内女性					
			2月末日	年初7/1	本年度入会者	本年度退会者	本年度増減	
5	横浜南	3	41(4)	43(4)	0(0)	2(0)	-2(0)	
	横浜港南	3	29(4)	26(4)	5(1)	2(1)	3(0)	
	横浜旭	3	20(2)	20(2)	0(0)	0(0)	0(0)	
	横浜瀬谷	3	26(4)	25(2)	2(2)	1(0)	1(2)	
	横浜緑	4	24(4)	23(4)	1(0)	0(0)	1(0)	
	横浜田園	4	21(2)	20(0)	2(2)	1(0)	1(2)	
	横浜南陵	3	30(1)	30(1)	0(0)	0(0)	0(0)	
	新横浜	3	29(3)	29(4)	1(0)	1(1)	0(-1)	
	横浜あざみ	3	9(7)	9(7)	0(0)	0(0)	0(0)	
	横浜南中央	4	36(4)	35(3)	1(1)	0(0)	1(1)	
	小計		265(35)	260(31)	12(6)	7(2)	5(4)	
	6	横浜	4	190(4)	184(2)	14(2)	8(0)	6(2)
		横浜磯子	3	18(2)	16(2)	4(0)	2(0)	2(0)
横浜金沢八景		3	37(11)	31(9)	6(2)	0(0)	6(2)	
横浜中		4	51(10)	52(10)	1(1)	2(1)	-1(0)	
横浜金沢東		2	28(2)	27(2)	1(0)	0(0)	1(0)	
横浜山手		2	23(6)	25(6)	0(0)	2(0)	-2(0)	
横浜ベイ		2	41(6)	38(6)	4(0)	1(0)	3(0)	
小計		388(41)	373(37)	30(5)	15(1)	15(4)		
7	横浜西	3	94(13)	85(13)	9(0)	0(0)	9(0)	
	横浜戸塚	2	42(5)	42(5)	2(0)	2(0)	0(0)	
	横浜保土ヶ谷	1	24(2)	22(2)	2(0)	0(0)	2(0)	
	横浜戸塚西	3	16(1)	16(1)	0(0)	0(0)	0(0)	
	横浜泉	2	21(2)	21(2)	1(0)	1(0)	0(0)	
	横浜MM21	3	31(1)	30(1)	1(0)	0(0)	1(0)	
	横浜戸塚中央	3	15(0)	16(0)	0(0)	1(0)	-1(0)	
	小計		243(24)	232(24)	15(0)	4(0)	11(0)	
合計		1823(212)	1755(189)	115(28)	47(5)	68(23)		

横浜南	1	24(12)	18(10)	7(3)	1(1)	6(2)
横浜	1	13(5)	9(5)	5(1)	1(1)	4(0)
ベイフロント横浜	1	5(0)	5(0)	0(0)	0(0)	0(0)
横浜市立大学	1	15(11)	0(0)	17(12)	2(1)	15(11)
合計		57(28)	32(15)	29(16)	4(3)	25(13)

クラブ数	会員総数 (7月1日現在 1,755名)	本年度入会者	本年度退会者	本年度会員増減数
50RC	1,823名 (内女性会員 212名)	115名	47名	+68名

クラブ数	会員総数 (7月1日現在 1,787名)	本年度入会者	本年度退会者	本年度会員増減数
50RC・4RAC	1,880名 (内女性会員 240名)	144名	51名	+93名